

グラウンドワークとは.....

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
 (文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)

平成25年度 通常総会開催



今年度も、GW三島の多様な市民活動へのご支援と

ご協力を、心よりお願い申し上げます。

6月29日、Via701にて、多数の来賓ご臨席のもと、平成25年度の通常総会が開催された。議長に小松幸子理事長、議事録署名人に正会員である志村肇理事と春名薫理事が選出された。進行役は、越沼正評議員が務めた。

渡辺豊博事務局長から前年度の事業報告、決算報告、及び本年度の事業計画、予算計画が説明され、遠藤隆監事より監査報告もあり、原案どおり承認された。さらに、主たる事務所の移転等に関する定款変更の件が審議され、同様に原案どおり承認された。

今年度の主な取り組み

- ①松毛川「千年の森」づくりトラスト運動の継続・強化
- ②「境川・清住緑地・大湧水公園」の実現
- ③大場地区での里山再生活動への本格的な取り組み
- ④海外の先進地の視察研修
- ⑤三島街中カフェ事業の拡大・展開
- ⑥「東日本大震災支援活動」で、被災地の子どもと女性を対象とした支援活動の本格化
- ⑦静岡の専門学校内に「環境キャリアデザイン科」と「地域再生デザイン科」の新設

富士山世界文化遺産登録記念講演会 「富士山の世界文化遺産登録をめぐる光と影」

通常総会終了後、同会場にて、富士山の世界文化遺産登録を記念して渡辺豊博専務理事を講師に講演会を開催。約60人が熱心に聴講した。渡辺専務理事は、ユネスコの委員会が開かれたカンボジアのプノンペンにGW三島のスプリチャル修平ルイス事務局員と出向き、「第37回世界遺産委員会」にオブザーバーとして参加。富士山の世界文化遺産登録が決まる瞬間を見届け、現地で静岡第一テレビの取材も受けた。



左の写真二枚は、カンボジアからのテレビ中継番組で、六月二十一日の夕方放送された画像。



現地での映像を交え、ホットな話題を分かりやすく説明



▲7年前の2006年10月、GW三島主催の富士山湧水インストラクター講座で富士山を訪れ、記念撮影。

渡辺専務理事によると、富士山の世界文化遺産登録に関わる審議では、三保の松原を含めるか否かの議論に終始してしまった感があったようだ。実際の富士山は、富士五湖周辺の開発、登山者数の増加によるオーバーユース、旧道との関連性など様々な問題を抱えており、それはICOMOS(国際記念物遺跡会議)の指摘でもある。今回、富士山が世界文化遺産に登録されたのは、日本人の山岳信仰が評価されたためであった。これを契機に富士山の環境問題に関心を深め、海外での取り組みのように、富士山を一元管理する富士山庁を設立し、富士山立法を実現することが必要であると述べた。

「登山道の改修や、医療体制の充実、専門的知識を持つレンジャーの増員、登山者の人数制限や入山料の徴収など、しっかり管理するためにも国家による一元管理は欠かせない。GW三島でも、世界の宝物となった富士山を次世代へ引き継ぐための活動に取り組んでいきたい」と結んだ。

ありがとう！GW三島の活動を支えている、みなさまのパワーに乾杯！



連日、多数の方々にお手伝いいただき、本当にありがとうございました。

あとは、これらを運んで床が元の状態に戻れば、引っ越し完了かな・・・



三島の水は、どこからやって来ると思っていますか？

「生命力湧き出る街・三島」だね。

「少年にタイムスリップできる街・三島」だよ。

富士山かな？箱根の山々からかな？

「ガラパゴスな街・三島」だと思うけど！

「水の流れに身をゆだねている街・三島」のキャッチコピーは？

「みず、みどり、みんなが好きな街・三島」はどう？みが3つの三島！

五色の班が考

▲内閣府からの全国展開事業も、全力で取り組んだ思い出多い前事務所からの引っ越し。新事務所でも、GW三島らしい活動を国内外に向けて発信し続けています。

▲三島市内の小中学校で、環境教育出前講座の講師として、インストラクターのみなさんが活躍しています。専門家の方々と一緒に、各実践地で指導にあたることもあります。

▲世代を超えたさまざまな視察者に、楽しく分かりやすい案内説明をして好評です。

平成25年度 腰切不動尊 大祭開催

6月1日、腰切不動尊大祭が開催された。今年は、GW三島が、地域住民と日本大学国際関係学部国際協力部、企業等との協働により、40年ぶりに祭りを復活させてから15回目。また、腰切不動尊が御殿川の川底で見つかったから380年という年に当たる。

今回は、都留文科大学の学生も参加し、祠を磨き上げた。龍澤寺の僧侶による読経の中、参列者が焼香をし、腰切不動尊に手を合わせた。三島市長による挨拶があり、参列者と不動明王ご真言を唱えた後、子どもたちがシャギリを奉納した。その後、みしまプラザホテルの第2駐車場にて、日本大学国際関係学部国際協力部の学生が、焼とりドッグ、白玉入りフルーツポンチなどを振舞った。腰切不動尊の紹介、田町シャギリ保存会によるシャギリの披露、こどもゲームコーナーなども行われ、賑やかな祭りとなった。



親子で、ジャガイモ掘りとホタル観賞？



6月1日、キャノンマーケティングジャパン(株)の参加ご家族一行35人を箱根西麓の畑で出迎えたのは、GW三島スタッフ。2月に植え付けた「キタアカリ」と「レッドムーン」の2種類のジャガイモを収穫し、真竹のタケノコも収穫。天候にも恵まれ、歓声の連続だった。

次に三島梅花藻の里で案内役と合流し、ホタル観賞の下見を兼ねた源兵衛川散策に出発。ホタルの生態や観賞スポット等を学んだ後、源兵衛川の最上流部で記念撮影。ここで解散が宣言された。しかし、多くの参加者は、暗くなるまで待ってホタルを見て帰るとのことだった。

ホタルまつりに「竹あかりイベント」開催

6月8日、楽寿園をメイン会場に開催された「第29回三島ホタルまつり」は、8,500人余の人出でにぎわった。

GW三島では、事前に手づくりで用意した160本の竹あかりを、楽寿園正門、園内、白滝公園などに設置。ローソクを灯すと幻想的な空間が浮かび上がり、富士山や干支のへびなどに人気があった。この竹あかりは、ホタル観賞の来場者を二重に喜ばせることができたこと好評だった。



英国通信

ロビン・ヘンショウさん
お誕生日おめでとう!
英国のジョージ王子の
お誕生日おめでとう!

ロビン・ヘンショウさんへ誕生日のお祝いメールを送った小松幸子理事長に、御礼メールが届き、お孫さんたちの写真も添付されてきました。折しも、ダイアナ元妃のお孫さんになるジョージ王子誕生の朗報も、世界中に届きました。以前ヘンショウさんに見せていただいた、英国のGW活動の1つでダイアナ元妃がプリンス・パークの開所式にいらっしゃったときのアルバム(右下)があります。表紙を飾っているのは、ありし日のダイアナ元妃と若き日のロビン・ヘンショウさん。ページを開くと、ダイアナ元妃に傘を差しかけているヘンショウさんがいます。これからは、お孫さんたちの時代も始まりますね。

GW三島20周年記念式典にお招きいただき、三島で皆様と大変楽しいひと時を過ごすことができました。どうもありがとうございました。帰国後の私の生活は自分の時間がないくらいで、「忙しい」の一言です。男の子ばかり5人の孫がおり、妻と私は毎週そのうちの3人の世話をしています。特に長い時間をともにするのは、娘エリザベスの息子ジョージン・ポールです。GW三島の帽子をかぶっているのが彼です。現在18カ月ですが、日に日に重くなり、おんぶや抱っこで遠くに連れていくのは大変になってきています。とても疲れますが、可愛いので面倒を見るのは楽しみです。また、91歳になる母親の世話もしています。彼女は若い時同様に行動的ですので、外に連れ出し、私たちととも田舎道の散歩を楽しんでいます。私の庭のクレマチスが咲くのをみると、皆様のことを思い出します。沢地グローバルガーデンのクレマチスと一緒に種蒔きした花も咲いたそうで、とても嬉しいです。GW三島が、小松幸子理事長とともに、益々成功し続けることを期待しています。ロビンより

HRH The Princess of Wales





情に絆（ほだ）されて

三島ロータリークラブ前会長 山岡 修一さん(旧姓弓削)
三島市文教町在住

昭和16(1941)年、東京・浅草蔵前生まれ。昭和20(1945)年、東京大空襲の際には身内5人が行方不明に。たまたま前日、母と一緒に父の実家である埼玉県に疎開して難を逃れた。「命あることの尊さを今、強く感じています」と話す。終戦後、復員した父が横浜ゴムで働くことになった関係で、三島に移住。錦田小、三島北中から昭和31(1956)年、県立沼津工業高等学校電気科に入学。昭和34(1959)年同校を卒業し、読売新聞社入社。7年間の北陸支社報道部での勤務の後、東京本社に戻る。それを機に、昭和44(1969)年から新幹線通勤を始める。現在の新幹線通勤のはしりと語る。平成6(1994)年、53歳で退社するまでの36年間、主として写真撮影や取材を通し編集の仕事に携わった。デスクからは「知らないことは罪悪」と言われ、必死で勉強し、大学では学べなかったであろう、多くのことを新聞社で学ばせてもらった。今は、「自分は読売大学卒」と胸を張って言えるようになった。新聞社での「現場第一主義」の精神は、フットワークのよさとなって今でも役に立っていると言う。



桜川で水桶づくり
昭和52(1977)年7月

昭和44(1969)年、三島に戻って来たとき、三島では「水、町名、三島囃子」の3つが衰退、もしくは失われつつあることに気が愕然とした。早速、三島青年会議所(JC)のメンバーたちと協力してその再生、復活に取り組んだ。当時どぶ川と化していた桜川に、幅120cm、高さ90cmほどの樋を作り、水泉園(現白滝公園)の清流を流した。その横を流れるどぶ川と対比させ、汚れがいかにかいどいかを市民に訴えるためだったと語る。その後の清流の復活、水の都・三島の再生は誰もが知るどころであるが、その原



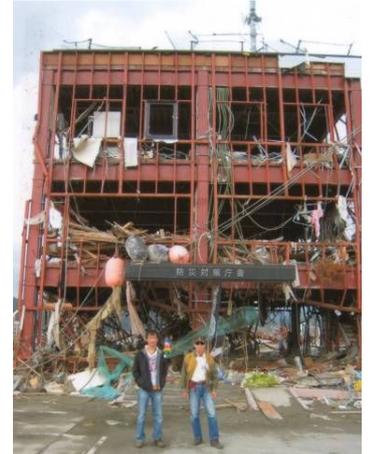
子供シャギリ大会 三嶋大社社頭玉垣
昭和55(1980)年

動力ともいえる「三島ゆうすい会」の最初の事務局は自宅におかれた。旧町名の復活は行政の厚い壁に阻まれ、思うに任せなかったようだが、郷土の地理、歴史、文化と非常に関係の深い名前がなくなっていくのは何ともやりきれない思いだと語る。それに比べ、子供シャギリの今日の隆盛は、想像以上であり、本当に喜ばしいことだと笑顔で話してくれた。

「男のロマンはかくし味」。仕掛け人は火をつけるが、一旦火が付いたら陰に退くのがポリシー。表

に出ず、黒子に徹しきるところに男の美学があると言う。自分が、自分がという人が多い当節、何ともさわやかな話である。

昭和46(1971)年、30歳で結婚。奥様との間には大学を出たばかりの息子さんが1人。焦らずじっくりと自分の進むべき道を見つけてくれれば良いと言う。奥様は現在「国際ソロプチミスト駿河」の2回目の会長という要職にあり、大変忙しい日々を送っている。



息子さんとボランティア活動
(南三陸町防災対策庁舎前で)
平成23(2011)年5月

その奥様に見せられた雑誌記事がきっかけで、平

成8(1996)年、『3年B組金八先生』の作者である小山内美江子さんが代表を務める「JHPカンボジアの子供に学校をつくる会」に入会。以来27回にわたりカンボジアを訪問。建設地の調査、ブランコや鉄棒、タイヤ遊具の設置、音楽指導、絵画指導、地域の人々や子供たちとの交流などを行ってきた。平成23(2011)年の東日本大震災以降は市内有志に呼びかけ、支援活動を続けている。被災地を訪れた回数は31回を超えた。現在は仮設住宅集会場での吊るし雛づくり講習会(4回)をしたり、南三陸町に伊豆の桜の苗木を届けたりしている。5年間で1000本が目標と語る。

平成22(2010)年～23(2011)年、三島ロータリークラブの会長に就任。「もっとお互いを知ろう」を合言葉に会員相互の絆を深め、クラブの発展に



地元の方々と河津桜を植える
宮城県南三陸町寺濱神割崎
平成24(2012)年11月24日

寄与した。最終例会の折、「絆」について氏は次のように述べている。

「絆の動詞形は『絆(ほだ)す』と読みます。『情に絆される』など今では死語になったような言葉ですが、『あの人に絆された』とは尊敬を込めた言い方で、そのような人に巡り合えることは幸せです。何の見返りも求めない無償の愛の喜びは「情に絆される」ような人との出会いであり、それが氏をこれまで支えてきたものかもしれない。人情紙風船の時代、「情に厚く、情にもろく、情に絆されやすい」一面が垣間見られたインタビューであった。

過ぎゆく三島 いつまでも その14

幾億の聲音が 坂に積もり
吐く息が 谷を埋める

わが箱根にこそ 司馬遼太郎



司馬 遼太郎 (大正 12 年～平成 8 年 1923～1996) 小説家、ノンフィクション作家、評論家。
三島から箱根に向かう途中、山中城跡^{だいさきでまる}岱崎出丸側の箱根旧街道石畳の脇に、司馬遼太郎の上記

の碑がある。昭和 60 (1985) 年、三島青年会議所 (当時の三島 J C 理事長は小野徹さん) が小田原青年会議所に働き掛けて、オープンロード箱根八里記念碑が 8 基設置され、これは、そのうちの 1 基。「わが箱根にこそ」の箱根は、司馬遼太郎が北条早雲の人生を中心に描いた『箱根の坂』の舞台でもある。箱根に続く道沿いの山中城跡を訪れると、司馬遼太郎の碑の「幾億の^{あし}聲音」や「吐く息」が時空を超えて坂や谷に響いてきそうだ。

「オープンロード箱根八里」の名付け親は、三島出身の詩人・大岡信さんで、「箱根八里がかつての大街道であったと同時に、今、若者にとってチャレンジの道であってほしい」との思いが込められた命名とある。8 基の箱根八里記念碑には、そうそうたる人の言葉が刻まれている。芹沢光治良、小澤征爾、澤田政廣、井上靖、東山魁夷、司馬遼太郎、大岡信、鈴木宗忠老師である。



司馬遼太郎といえば、シリーズ「過ぎゆく三島 いつまでも その1」でも紹介したが、今回、司馬遼太郎の『三島水辺の文学碑』の「この湧水というのが、なんともいえずおかしみがある」で始まる一節を取めた著書『以下、無用のことながら』(文藝春秋社版)を紐解いてみた。その中の『裾野の水——三島一泊二日の記』(小説新潮 1986 年 2 月号)



平成 16 (2004) 年 1 月 10 日、みしまプラザホテルにて開催された大岡信さんの文化勲章と三島市名誉市民章受章の祝賀会には、GW三島や三島ゆうすい会の関係者が多数出席し、心から祝福した。前列着席のお 2 人が大岡信ご夫妻。



大岡信さんや川村博一さんと沼津中学 (現沼津東高) で同学年だった 2 人。中川和郎さん (左) と佐伯忠夫さん。中川さんは、このボランティアニュースに『三島源人』を連載していた。



左から、小野徹さんと、その 2 学年先輩の小松幸子さんと山田勝造さん。小野さんも、このボランティアニュースに『21 世紀塾代表の世界観』を連載していた。

掲載) は、僅か一泊二日の滞在中に多くを見聞し、三島の人々と交流したことなどを、深い見識でまとめ上げた短編だ。その中で誰よりも早く登場しているのが、GW三島や三島ゆうすい会の活動への良き理解者である、詩人・大岡信さんである。司馬遼太郎は、大岡信さんに少年時代の三島の湧水について尋ね、その頃は湧水が「市中のあちこちで湧き出し盛り上がっているほどだった」と聞き出している。

また、三島で買い求め、翌朝早めに目が覚め眺めるうちについ読んでしまった本があるという。それは『「三島」の構図：あしたを生きる』のことで、司馬遼太郎は著者・川村博一さんにも会っている。その著書の内容に驚かされ、彼のことも好感をもって書いている。川村さんは大岡信さんと同学年で、三島香陵会 (沼津東高同窓会三島支部) 元会長でもある。こうなると、俄然、人と人とが繋がっているという感じがしてくる。

ここに川村さんが三島香陵会の会長だったときのアルバムがある。

川村さんは大岡信さんと同学年で、アルバムには同じく同学年の GW三島元副理事長の中川和郎さんや、GW三島のインストラクターであり源兵衛川を愛する会の佐伯忠夫さん、さらに、10 数年若手といえる、GW三島副理事長の小野徹さんや GW三島理事長の小松幸子さん、GW三島教育アドバイザーの山田勝造さんもいる。勿論、もっと若手も多数いる。

ところで、「三島と箱根」と言えば、江戸時代の慶長 6 (1601) 年に作られた徳川家康の宿駅制度により、三島は江戸日本橋から 11 番目の宿駅に指定されたが、「天下の険」と歌われた箱根を控え、三島は宿場町として大変賑わったという。

宿場町として栄えた三島は、いよいよ汽車の時代になるという時に遅れをとった。この時の三島のまちのテンヤワンヤはよく聞くとところであるし司馬遼太郎も書いているが、実は念願叶って三島に鉄道が通ると、今度は御殿場がテンヤワンヤになった。いつの時代でも、人々はそれぞれの故郷を大事に思い、懸命なのだ。



岱崎出丸側



西の丸方面

戦国時代末期の 1560 年代に、小田原に本城をおいていた後北条氏が築城したという山中城跡。貴重な中世のこの山城は、現在国の史跡に指定され日本 100 名城の 1 つとなっている。(上は歌堀などの写真 2 枚)

源兵衛川の水辺



【寄稿】GW三島監事 たかはし くにあき 高橋 邦明さん

私は、弁護士・弁理士をしております高橋邦明と申します。生まれは東京都で、平成12(2000)年に弁護士・弁理士登録をした後、各士業の他弁護士会の環境保全委員会の活動やベンチャーファンド関係の仕事などを行っています。

趣味は、旅行、トレッキングなどで、座右の銘は持っていませんが、現地主義をモットーにしています。

平成17(2005)年に別のNPO法人の仕事をしていたときに、渡辺豊博グラウンドワーク三島事務局長と知り合ったのがグラウンドワーク三島との出会いです。初めて源兵衛川を歩いたときは、何て素晴らしいことができるのだろうと思いました。

河川改修といえば行政が主体となり、いかに水を効率よく流し去るかという観点から、壁面川底はコンクリートで固めてしまい、共感も原体験も感じられない人工的な溝を作り上げるというイメージでした。

平成14(2002)年に制定された自然再生推進法も、当時運用が始まったばかりで、行政や企業、住民間でどうやって合意形成するのか、果たして合意ができるのかなど問題が山積していたと記憶しています。

日本では行政など事業主が一方向的に開発をするため訴訟がときどき提起されますが、欧米では住民や行政、事業主が事前に話し合いをして合意形成をして開発をするため事後に訴訟になることはほとんどないとも聞いています。

そのような中で、源兵衛川は、既に汚染から復活し再生され、清流が流れているばかりではなく、水中歩道の整備や生態系の保護のための措置がなされており、しかもそれらについて住民の意見がかなり反映されていて、日本でも欧米のような合意形成による公共事業ができるんだと感銘を受けた次第です。

グラウンドワーク三島には、これからも多くの人々が真似したくなるような「アッ」と驚く解決をして社会に貢献していくことを期待するとともに、私自身もそうできるよう頑張っていきたいと思っています。

今こそチャンス！ 松毛川千年の森づくり



松毛三日月会副会長 いしかわ あきら 石川 章さん

昭和13(1938)年、中国東北部(旧満州)で生まれる。引き揚げ後、裾野市で3カ月生活し沼津市に移る。戦後、何もない頃に小学生時代を過ごした。身体は細かったが、健康で1日も学校を休まなかった。背も高く、静岡県立沼津東高校ではバレー部に所属し活躍。卒業後、銀行に就職。

昭和43(1968)年、結婚し石川家に入る。昭和62(1987)年、石川家の13代目となる。石川家は400年続く旧家で、寺院の総代や神明宮の氏子代表など御園地区での役割は大きい。

渡辺豊博事務局長とはお互い、三島香陵会(沼津東高同窓会支部)の会員であり、縁が深かった。御園地区圃場整備事業や松毛川再生計画を通して、グラウンドワーク三島との関わりが生まれた。現在、松毛三日月会副会長として活動し、松毛川の貴重な自然環境を後世まで受け継いでいきたいと思っている。



松毛川の河畔林周辺は、現在のままでは「千年の森」の計画もなかなか進まないのではないかと危惧している。松毛川の森づくりの機運が高まっている今こそチャンス！県や市などの行政からの関与も、森づくりには必要である。

代々続く家や田畑、地域のしきたりなど、伝統を受け継ぎ次世代へ手渡すことは様々な苦労があるが、よいものは守り伝えていく。それが自分の役割だと思っている。

パッション No. 17

国際的に考え、地域的に行動する 国際協力部

国際的に考え、地域的に行動する 国際協力部



挨拶する小松千尋部長

国際協力部は、日本大学国際関係学部の大学公認団体です。「国際的に考え、地域的に行動する＝グローバル」を理念とし、活動しています。主な活動として、地域のお祭り支援(腰切不動尊大祭)、大学での模擬店出店と活動展示、講演会の開催などを行っています。私たちは理念に基づき、地域の活動に積極的に参加し、住民の方との交流を図っています。

また、部内には、海外支援物資の回収とその提供を行う分科会「Ami」と、三島市に住む外国人児童の就学支援を行う分科会「アモール」もあり、意欲的に活動しています。

毎年5月にはグラウンドワーク三島さんと共同で腰切不動尊大祭を開催しています。今年は当日ボランティアの方も参加していただき、このお祭りの趣旨である『地域に返す』という目的に近づくことができました。

今後もグラウンドワーク三島さんと協力しながら、より良い活動を行っていききたいと思います。

日本大学国際関係学部 国際協力部 部長 小松 千尋



Tシャツの背中の裾には、the International Cooperation Clubの文字。お祭りの一角で海外支援も受け付け！

月	日	曜	事業名	内容	場所	人数
6	1	土	腰切不動尊大祭	腰切不動尊大祭	腰切不動尊ほか	200
			CSR (キヤノンMJ)	馬鈴薯収穫、ホテル観賞	箱根西麓、源兵衛川	35
			現場体験 (イベント運営、実践地視察、農業体験、竹林伐採、ホテル観賞) 6/1・2	都留文科大学学生、立教セカンドステージ大学生、日本航空高校静岡校生徒	源兵衛川、腰切不動尊、箱根西麓、松毛川、大場	24
6	4	火	環境教育 (現場体験)	日本航空高校沼津校、伊豆函南校生徒	源兵衛川	34
			環境教育 (校外学習)	徳倉幼稚園年長児 子ども環境探検隊	源兵衛川	42
6	8	土	三島ホテル祭り	竹あかり160本をセット	楽寿園正門	18
6	11	火	GW三島静岡事務所開設記念	第2回「NPO伝道師・ジャンボ渡辺を囲む会」	静岡市ノアデザインカレッジ	20
			環境教育 (出前講座)	東小学校3年生 昆虫を育てよう (トンボ)	東小学校	66
6	18	火	第一学院静岡校生徒 現場体験	源兵衛川散策、ちゃんかけ拾い、三島梅花藻の里整備、販売体験	源兵衛川、三島街中カフェ	22
			環境教育 (校外学習)	東小学校4年生 三島の湧き水めぐり	源兵衛川	59
6	20	木	環境教育 (出前講座)	東小学校3年生 昆虫を育てよう (ホタル)	東小学校	66
			環境教育 (出前講座)	北上小学校2年生 ホタルの一生	北上小学校	52
6	21	金	環境教育 (出前講座)	錦田小学校4年生 三島の川を探検しよう	錦田小学校	113
6	22	土	源兵衛川ふるさとの川づくり	三島中央病院職員とのちゃんかけ拾い	源兵衛川	30
6	24	月	環境教育 (校外学習)	徳倉小学校4年生 わき水巡り体験	源兵衛川	75
			環境教育 (校外学習)	西幼稚園年長児 川の生き物、夏の昆虫	源兵衛川	17
6	25	火	GW三島静岡事務所開設記念	第3回「NPO伝道師・ジャンボ渡辺を囲む会」	静岡市ノアデザインカレッジ	20
			日本大学国際関係学部学生実践活動	鏡池ミニ公園、源兵衛川散策・ちゃんかけ拾い等	鏡池ミニ公園、源兵衛川	28
6	29	土	平成25年度通常総会	通常総会、講演「富士山の世界文化遺産をめぐる光と影」	Via701	60
6	30	日	環境教育	トヨタ自動車労働組合 (親子) 源兵衛川であそぼう	源兵衛川	133
7	2	火	環境教育 (出前講座)	西小学校3年生 水の都秘宝探検	西小学校	63
7	3	水	環境教育 (校外学習)	北上小学校4年生 わき水巡り体験	源兵衛川	58
7	8	月	環境教育 (校外学習)	錦田小学校4年生 三島の水	源兵衛川	113
7	9	火	環境教育 (校外学習)	南幼稚園年長・年中児 源兵衛川の生き物に	源兵衛川	66
7	10	水	環境教育 (出前学習)	東小学校4年生 アルミ缶のリサイクル	東小学校	59
7	12	金	環境教育 (出前講座)	佐野小学校1年生 生きものとなかよし	佐野小学校	55
7	16	火	環境教育 (校外学習)	西小学校3年生 わき水からの贈り物	源兵衛川	62
7	20	土	鎮守の森探検隊	①「富士山の変化に富んだ自然を楽しむ観察会」	山梨県山中湖・高指山	20
7	21	日	源兵衛川ふるさとの川づくり	三島高校・中流部環境再生ワンデイチャレンジ	源兵衛川第4ゾーン	20
7	22	月	クラブツーリズム新人研修	源兵衛川等の現場体験とワークショップ	三島市内、市民文化会館	56
7	25	木	CSR (イオンチアーズクラブ)	ミシマバイクモの手入れとちゃんかけ拾い	源兵衛川、三島梅花藻の里	17
7	27	土	鎮守の森探検隊	②「調べてみよう！川のきれいさと川虫の関係」	源兵衛川第7ゾーン	30
8	2	金	源兵衛川ふるさとの川づくり	①源兵衛川ミニミュージアム	大中島会館1階	64
8	4	日	子どもを元気に富士山プロジェクト8/4~7	第2回富士山に登って元気になるウツア	三島市、富士山、伊豆市	5
8	6	火	環境教育 (出前講座)	清水国際高等学校生徒に源兵衛川の再生について	清水国際高等学校	15
8	8	木	源兵衛川ふるさとの川づくり	②中流部で生き物がさし	源兵衛川第4ゾーン	60
8	9	金	鎮守の森探検隊	③「光を灯して、夜の虫観察会」	山田川	20
8	10	土	青木ヶ原樹海のエコツアー	支援学校生徒 樹海の散策他	山梨県	7
8	18	日	鎮守の森探検隊	④「狩野川の源流で探そう！森と水の関係」	伊豆市・萬城の滝	16
8	19	月	源兵衛川の水辺散策と生き物探し	支援学校生徒 体験と情報発信教室	源兵衛川	6
			源兵衛川ふるさとの川づくり	③中流部で生き物がさし	源兵衛川第4ゾーン	57
8	22	木	子どもを元気に富士山プロジェクト8/22~24	第14回心を元気にするショートツアー	三島市内、富士山など	26
			森の堤防づくり	松毛川右岸に竹しがらで堤防づくり	御園	25
8	24	土	富士山文化遺産関係	国際ロータリー第2620地区社会奉仕委員会事業	富士宮市民文化会館、水ヶ塚	420
			三島そば栽培	①三島そば種まき	箱根西麓	35
			三島そば栽培	②三島そば追加種まき	箱根西麓	10
8	29	木	環境教育	桐陽高校生徒富士山ゴミ拾い、外来植物除去作	富士山	60
			学校ビオトープ	現地確認	沼津東高	4
9	6	金	鎮守の森探検隊	⑤「耳を澄まして、秋の虫の声を聴こう！」	長伏公園周辺	20
9	11	水	三島そば栽培	③三島そば追肥、除草	箱根西麓	10
9	14	土	源兵衛川ふるさとの川づくり	三島高校・中流部環境再生ワンデイチャレンジ	源兵衛川第4ゾーン	25
9	17	火	英国スタディツアー	英国スタディツアー	英国ロンドンなど	6
9	21	土	CSRキヤノンMJ	そば畑の除草、生き物がさしと川遊び	箱根西麓、源兵衛川	10
9	28	土	鎮守の森探検隊	⑥「身近なジオサイト、楽寿園」	楽寿園	20
			腰切不動尊例祭	腰切不動尊例祭	腰切不動尊	10
			源兵衛川ふるさとの川づくり	三島中央病院職員とのちゃんかけ拾い	源兵衛川	30
9	30	月	環境教育	日本航空高校静岡校生徒	源兵衛川	30



7月11日、編集室メンバーで三島市立図書館に記念誌等の贈呈に行ってきた。岩田道彦館長 (前列中央) からは、GW三島が日頃地域に密着した活動を活発に行っているの、今後発行されるチラシの類も是非ほしいと、嬉しいお言葉がありました。

視察来訪者記録 H25.6.1 ~ H25.9.30

月	日	団体名	人数	地域
6	2	都留文科大学渡辺ゼミ3年生	13	山梨
6	2	立教セカンドステージ大学生	10	東京
6	4	日本航空高校沼津校・伊豆函南校生徒	34	静岡
6	6	国際コモンズ学会	18	海外
6	14	第二東京弁護士会環境保全委員会	12	東京
6	18	第一学院静岡校生徒	24	静岡
6	24	ボスニア・ヘルツェゴビナ大使館	2	東京
6	27	日本大学国際関係学部	29	静岡
7	7	高倉ふるさとづくりの会	36	埼玉
8	9	御殿場市地域づくり活動主事連絡会	20	静岡
8	14	常葉大学富士キャンパス	60	静岡
8	20	NPO法人ソムニード(ネパール)	4	海外
8	25	国際ロータリー第2620地区	200	静岡
8	29	登米市自主研究グループ	8	宮城
9	27	茨城県土地区改良団職員研修会水戸支部	20	茨城

- 〈定例作業〉
- ★三島梅花藻の里21回 ★鏡池ミニ公園4回
 - ★桜川4回 ★宮さんの川毎日 ★源兵衛川21回 ★沢地グローバルガーデン4回
- 〈定例会議〉
- ★インストラクター会議4回 ★編集会議10回



←今夏、松毛川右岸・三島市御園の農家に借りた遊休農地で、土づくりのために5月に蒔いたヒマワリが、2カ月で満開となった。

←「せせらぎ源兵衛」(三島街中カフェ3号店)で、箱根西麓野菜のさつま芋や人参入りの珍しい「かき氷」を新発売し、大人気!

現場体験 都留文科大学3年生 立教セカンドステージ大学専攻科

6月1日、2日の日程で、都留文科大学の渡辺ゼミ3年生13名と立教セカンドステージ大学専攻科生10名が現場体験に訪れた。また、日本航空高校静岡校の生徒1名も参加。

内容は、腰切不動尊大祭イベント運営体験、源兵衛川視察 (案内：渡辺豊博専務理事)、懇親会、ホテル観賞会、松毛川での竹林伐採作業、麦の刈り取り見学、三島市大場を視察、箱根西麓にて農作業体験等。収穫が笑顔に現れていた。



第一学院静岡校の生徒 現場体験

6月18日、第一学院静岡校の1、2年生22名がGW三島の現場体験実習に参加し、充実した1日を過ごした。

まず源兵衛川の散策と「ちゃんかけ拾い」を体験。生徒は川から上がった後、貸出用のサンダルを洗い、綺麗に並べて乾かしてくれた。この心配りに事務局のスタッフ一同が感激した。

その後「三島梅花藻の里」にてミシマバイクモの手入れと施設の整備を体験。「三島街中カフェ」で販売の昼食をとった後、「三島街中カフェ」の1~3号店に分かれて販売体験をし、大きな声で道行く人に呼び掛けた。



日本大学国際関係学部の学生・源兵衛川で学ぶ

6月27日、日本大学国際関係学部の学生28名(2、3年生)がフィールドワークの授業の一環で、現場での実践活動を体験。案内は、GW三島小松幸子理事長と越沼正評議員。

鏡池ミニ公園を訪れ、企業等の協力について説明を受けたのち、源兵衛川を歩き、三石神社脇ではちゃんかけ拾い。水の苑緑地では生き物と遊ぶ小学生にも出会い、源兵衛川の生態系に意識が及ぶなど様々なことに関心が広がった。学生とは質疑のやりとりが続き、後日青木千賀子教授から、学生たちの熱心な学びについての報告があった。



子どもイオンチアーズクラブ 源兵衛川で清掃活動など

7月25日、イオンチアーズクラブ三島本町店の子どもたちが、三島梅花藻の里で作業体験をした。まず、インストラクターからミシマバイカモについて説明を受け、15℃ほどの湧水へ入った。ミシマバイカモの黒くなった部分を優しく洗ってやると、ミシマバイカモが嬉しそうに見えたという。



その後、三島中央病院横の源兵衛川で、ちゃんかけ拾いをし、広瀬橋付近で生き物探しと観察会を行った。水の冷たさもなんのその、子どもたちはタモ網を手に夢中。タモロコ、ドジョウ、アブラハヤ、ヌカエビ、トンボのヤゴなどが見つかった。観察後は子どもたちの手で全て川に戻した。

この日の体験が、今後の環境保全活動に役立つことを望んでいる。

清水国際高等学校で出前講座



8月6日、特進コースの進学希望の生徒を対象に渡辺豊博GW三島専務理事が講演を行った。テーマは「市民の知恵と行動により汚れた川をホタルが飛ぶ清流に復活」。

復活した清流の生き物たちの話や、現場での活動やフィールド体験をとおして成長した学生の話などが中心だった。それらの話をとおし、社会の中で大切なことや生きていくために必要なことは何かなどについて熱く語った。

GW三島静岡事務所・開設記念講演会

GW三島は、専門学校ノアデザインカレッジ校内2階に「静岡事務所」を開設することを記念して、無料講座を3回



(5/21、6/11、6/25) 開講。講師を渡辺豊博GW三島専務理事が務めた。

源兵衛川ミニミュージアムと生き物探し

■8月2日、三石神社境内の大中島会館に「ミニミュージアム」オープン。源兵衛川の「トンボの話」を加須屋真常葉大学非常勤講師、「植物の話」を菅原久夫常葉大学非常勤講師、「湧水と暮らし、水辺再生のドラマ、各ゾーンの見どころ」を菅野京子らGW三島インストラクター3名が解説した。60cm等の水槽を設置し、ホトケドジョウ、ミシマバイカモ等を表示。なかなか見られない源兵衛川の生き物を間近に観察し、64人の参加者は理解を深めた。■8月8日、「たも網を使った魚、水生生物探し」に60人が参加。加須屋講師、関川文俊常葉大学付属環境防災研究科研究員から説明を受け、源兵衛川にすむたくさんの生き物に触れて、川の恵みや生物多様性の重要性を体験。■8月19日、「たも網を使った川虫探しと学習」では、関川講師、遠藤浩紀長泉町立長泉北中学校教頭と川の中や川底の生き物調べをした。



猛暑の中、大学生ら（都留文科大学・早稲田大学・静岡大学）大活躍

8月22日、広川敏雄GW三島評議員の指導で松毛川右岸の「森の堤防」づくりを実施。都留文科大、早稲田大、静岡大の学生とGW三島スタッフ等25人が参加。下草刈りとゴミ拾いの後、竹しがら100束を設置。炎天下4時間の作業で、長さ40m幅1.5m高さ10mの「森の堤防」が完成。

8月24日、三島市川原ヶ谷（元山中）の遊休農地で三島そばの種まきを実施。そばづくり隊メンバーと大学生ら35人が参加し、手まきと機械まきで作業をした。11月上旬には収穫の予定。



第2回「富士山に登って元気になろうツアー」開催

～東日本大震災支援活動「子どもを元気に富士山プロジェクト」～



五合目付近の登山道さあ、登るぞ！

高山病にならないようゆっくりと

下山途中で見た御来光！

8月4日～7日、福島県いわき市の児童と引率者を招待し、第2回「富士山に登って元気になろうツアー」を開催。田村和幸GW三島インストラクターの案内で、富士宮口五合目から富士山頂を目指した。途中、激しい雨に見舞われたが天気は回復し、頂上では満天の星空、下山途中では御来光を眺めることができた。

源兵衛川中流部環境再生ワンデイチャレンジ

7月21日、流域住民や高校生、大学生など20人が参加。GW三島評議員の広川敏雄さんの指導で、三島メディカルセンター沿い（約50m区間）の外來植物の除去・在來植物の草刈り・堆積土砂の除去作業を行った。約2時間の作業で、2tトラックと軽トラックの荷台が、刈り取った草で満載となった。

ホトケドジョウやゲンジボタルの繁殖期を避けるため、これまでは5月に行われていた一斉清掃の中止を要請し、今回の実施となった。



「ネパールの環境を良くしたい！」と視察

8月20日、ネパールのカトマンズから、ディベンドゥラ・バスニヤット夫妻ら関係者がGW三島の実践地を視察。小松幸子GW三島理事長とスプリチャル修平ルイスGW三島事務局員が案内説明をした。

夏まさに真っ盛りで、一同、源兵衛川で元気に水遊びする子どもたちの姿に感動し、川のきれいさに驚き、ミシマバイカモ再生保護活動にも感心していた。「視察の成果は十分で、異なる季節に、ほかのメンバーも連れてきたい」と述べた。「せせらぎ源兵衛」で味わった「かき氷」は、生まれて初めての体験だったそうだ。



TVで続々と紹介される、源兵衛川やミシマバイカモ

■7月10日、NHK「ひるブラ」で、源兵衛川の散策路をタレント・IMALUと歩き、そこにすむ生き物なども紹介された。

■8月29日、NHKのBSプレミアム「ニッポンの里山～もうひとつの世界遺産を歩く」の中で、源兵衛川が紹介された。

■9月6日、NHK総合（中部7県）「金とく」で、ミシマバイカモや、源兵衛川の2ゾーンから5ゾーンまでが紹介された。

■10月7日、NHKのBSプレミアム「ニッポンの里山～ホテルが舞う街の水辺 静岡県三島市」を、お楽しみに！



三島市内の写真集

撮影者：みしま こまち
 撮影場所：源兵衛川（水の苑緑地南側）
 ひとこと：研修で初めて三島を訪れた若者たちが、ミシマバイカモの世話を体験。冷たい清流に歓声をあげながらも、山口東司さんのご指導で、可憐な水中花・ミシマバイカモの手入れを始めました。



【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添え、Eメールに添付してGW三島事務局までお寄せください。
 Eメール：info@gwmishima.jp

ご寄付をありがとうございます！

「子どもを元気に富士山プロジェクト」ほかGW三島の活動のために
 ＊ファミリーマート沼津井出店 16,650円
 ＊箱根西麓ふるさと再生協議会 9,850円
 ＊松毛三日月ふるさと協議会 13,730円
 ＊この祭り、乱れ咲き 10th 出店者 217,135円
合計 257,365円

三島市に『源兵衛川わくわく観察ブック』贈呈



▲三島市役所側の同席者は、宮崎眞行産業振興部部長（左）と野口厚学校教育課指導係係長

8月7日に、小松幸子理事長、渡辺豊博専務理事、村上茂之事務局員が三島市役所を訪ね、豊岡武士三島市長と杉山孝二教育部長に『源兵衛川わくわく観察ブック』を贈呈。三島市内小学校14校の図書室等に置いていただくことになった。源兵衛川で自然や環境について学ぶ際の、一助となることを期待している。また、これらが児童の環境保全活動への積極的な参加につながると嬉しい。

この日は、GW三島へインターンシップで来ていた栃木県の小山高専の今井文字さんも同行した。母親が以前GW三島のインターンシップに参加したことがあり、GW三島に興味をもっていただいた。

第二東京弁護士会 環境保全委員会 現地視察・ヒアリング等



6月14日、15日、第二東京弁護士会の環境保全委員会（委員長は高橋邦明弁護士）所属の弁護士11名が、GW三島の実践地を視察した。この委員会は、公害環境問題について無料電話相談をしたり、生物多様性の保護のための提言、弁護士会内の環境配慮手続きの作成と実践などの活動に取り組んでいる。

今回の視察は源兵衛川再生活動を基本とし、公害環境問題の具体的な解決方法についての調査。1日目の午前には、小松幸子GW三島理事長が源兵衛川等、街中の実践地を案内し、ちゃんかけ拾いも体験。午後からは、20年間の源兵衛川水辺再生に関わった行政、企業、市民団体、専門家等のヒアリング調査。2日目は、渡辺豊博GW三島専務理事の案内と講義。松毛川河畔林、境川・清住緑地等郊外の実践地視察。GW三島が取り組む環境改善活動や環境教育、環境コミュニティ・ビジネスについて理解を深めた。

「鎮守の森探検隊」★はじまり★はじまり★

7月20日、今年度の「鎮守の森探検隊」が始まりました。第1回～第9回まで、楽しいプログラムが盛りだくさん。第1回は「富士山の変化に富んだ自然を楽しむ観察会」。山梨県上野原市の高指山（たかざすやま）で、ハイキングと生き物観察会。講師は、常葉大学非常勤講師の加須屋真先生、磐田農業高校元教諭の大庭俊治先生。インストラクターは、田村和幸さんと仲田芳文さん。

実施日と場所は、7/27（源兵衛川）、8/9（山田川）、8/18（伊豆市萬城の滝）、9/7（長伏）、9/28（楽寿園）、10/5（柿田川）、11/30（伊豆市遊々の森）、1/25（松毛川ほか）。ご家族での参加も歓迎。ご都合のつく日だけの参加も可能。ただし、事前申し込みをしてください！



国際コモンズ学会の参加者が、フィールドワークでGW三島を訪問

6月6日早朝、小松幸子理事長は、村上茂之事務局員運転の車で山梨県の国際コモンズ学会の会場へ。そこで、GW三島のフィールドワーク参加者のバスに同乗。三島への道中もGW三島の活動を紹介し、三島市民文化会館ではパネルで概要説明。アメリカ、ドイツ、メキシコ、韓国、中国のほか、国内各地からの参加者は質問も多く、熱心に実践地を視察し、様々な体験活動もして帰路に。



GW三島から感謝状を贈呈

国際コモンズ学会
 第14回世界大会
 （北富士大会）
 入会から世界を変える
 -ひと・自然暮らしつながり-

グラウンドワーク三島編集室 ボランティアニュース 51号編集ほか

加藤 美穂	岸野 和子	城所 祖帝	小松 幸子
斎藤 彩子	本田 博子	前田 充子	水野 幾子
村澤 圭	山崎 多紀子	山田 勝造	(50音順)

GW三島事務局担当：村上 茂之